

京都ヒューマン賞 山田さんと2団体表彰 福祉現場の改善に尽力

京都ヒューマン賞を受ける山田尋志さん(中央)＝京都市下京区で



山田 古

公益財団法人京都オムロン地域協力基金(理事長・立石文雄オムロン会長)は2019年度の京都ヒューマン賞を、京都市北区の社会福祉法人「リガール暮らしの架け橋」理

事長で地域密着型総合ケアセンターきたおおじ代表の山田尋志さん(72)▽伏見区の社会福祉法人えのき会(古川末子理事長)▽京丹后市網野町の「はだしのコンサート実行委員

会(丸田敏樹委員長)の3者に贈呈した。基金は社会貢献活動に尽力した団体や個人を1986年から表彰している。

山田さんは81年から老人福祉施設に勤務し、当時の福祉現場での対応や環境に疑問を感じて改善を工夫。2000年には自らのライフスタイルに応じた暮らしを継続できるよう個室ユニット型の特別養護老人ホームを開設した。入居者の声を聞き、04年には小規模多機能型居宅介護事業所を開設。府と京都市と協議して初の「ふれあいホーム」の指定を受けモデル事業として始めた。

利用者の自宅に近い拠点で24時間365日の暮らしを支えるサービスは06年度に国の制度導入の先駆けとなった。現在は同市だけでなく同様の事業所は100カ所を数え業界全体の取り組みとなった。中小法人に共通するサービスの展開や人材育成などの課題に取り組もうと10年には社会福祉法人グループ・リガールを設立。京都市内で80～90代を中心に一人暮らしの人の住居を確保してきた。

えのき会は「重い障害があっても地域で当たり前に暮らす」ことを願う親たちが集まり1985年に伏見区榎町の借家で活動を開始。ボランティアの力を借りながら宿泊訓練などに取り組み、ヘルパーの派遣や送迎、入浴・夕食サービスなども提供している。重い障害のある人も必要な支援と環境があれば生活していけることを実証し、見守ってきた母親たちも自らの生き方を振り返るゆとりができていくという。

はだしのコンサート実行委は「鳴き砂」で知られる琴引浜(京丹後市網野町)で94年に「あなたの拾ったゴミが入場券」を合言葉にコンサートの企画運営を始め、ゴミの種類と量を調査するピーチクリンアップ活動と「手作りの環境啓発コンサート」に取り組んできた。97年の露タンカー「ナホトカ号」の重油流出事故など度重なる被害を受けながらも、掃除だけでなく「全年初の禁煙ピーチ」を99年から実現するなど高い評価を受けた。

琴引浜は2007年に国の天然記念物に指定された。コンサートでは動植物保護や地球温暖化防止、リサイクル推進、森林保全などのテーマで琴引浜の保護の重要性を発信。26回目の今年は「マイクロナスチックゴミから地球を救え」を掲げて6月2日に開催し、1ト近いゴミを回収した。

4日に京都市で開かれた贈呈式で立石理事長が表彰状を手渡した。山田さんは「本当に光栄。もう少しで73歳になるが、高齢者の一人暮らし世帯が増えているので、家族もそばにいない前提でケアサービスの仕組みを作らねばならない。学区ごとに地域に密着したかかりつけケアサービスを推進していきたい」と語った。【篠田直哉】